

2022年1月27日

日本プロテオーム学会（2021年～2023年理事）

2022年 第三回理事会 資料

開催日時：2022年1月27日（木） 16:00～19:00

会場：北里大学相模原キャンパス理学部3階セミナー室1とZoom会議の併用

出席者（50音順，敬称略）：

「JPrOS理事」

足達俊吾、荒川憲昭、荒木令江、岩崎未央、奥田修二郎、大槻純男、小田吉哉、川上隆雄、川島祐介、河野信、川村猛、紀藤圭治、木下英司、小迫英尊、小寺義男、小林大樹、近藤格、杉山直幸、高尾敏文、武森信暁、田中恒平、堂前直、肥後大輔、増田豪、若林真樹

「JPDM編集委員」

石濱泰、JPrOS 理事

欠席者：

1. 会長挨拶（小寺）

【報告事項】

1. 会員状況（川島）

（1）会員数（2022年1月10日現在）

種別	会員数
個人会員	個人会員 552 名（個人会員：446 名※1，個人会員（法人登録）：106 名） （昨年：545 名、一昨年：619 名、本年度新規入会者：29 名）
学生会員	327 名（182 名※2） （昨年：298 名、一昨年：287 名、本年度新規入会者：44 名）
法人会員	13 社（昨年 13 社、一昨年 14 社）
合計	884 名+13 社（昨年：843 名+13 社）

※1 2018-2020 年度会費未払い者 449 名を除く

※2 メール不達者除外

（2）その他

2. 会計状況

（1）現貯蓄額（2022年1月14日現在）

口座	残額
事務局口座（ゆうちょ銀行）	¥9,873,097
奇数年度大会口座（ゆうちょ銀行）	¥3,113,543
偶数年度大会口座（ゆうちょ銀行）	¥500,000

合計	¥13,486,640
----	-------------

予算の大きな変更ないが、JPrOS2021 大会、当日参加者の増加により、残額が増額となっている。

(2) その他

助成金 (JPDM 国際情報発信強化)

科研費助成金口座(三菱 UFJ)	¥3,624,123
------------------	------------

JPDM 助成金について残額あり今年度中の利用が必要

3. JPrOS2021 大会(小迫)(資料1)

- ・ オンライン開催で大きなトラブルはなし、270 名ぐらいの参加者、200 万円程度の黒字
- ・ 良いところでは、オンライン開催で今まだ参加されていない方の参加もあった。
- ・ 紙媒体の廃止も良かった。
- ・ 悪いところでは、会員の参加が少なかった。
- ・ 参加費が事前も当日も同じであったので、当日の参加者が多く、対応作業が大変になる。
- ・ 締切を守らない発表者が多かった。
- ・ セッション間の空き時間が 15 分であったが、少なかったかもしれない。
- ・ シンポジウムにもう少し会員の発表を増やしても良いかもしれない。

4. JPrOS2022 大会(小寺)(資料3)

- ・ 当初日程から変更となり、北里大学相模原キャンパスで 8/8~8/10 の開催が確定。
- ・ 合言葉は：“JPrOS ReConnect” で対面での開催を目指す。
- ・ 20 周年でもあるので、何かしらのイベントも行いたい。
- ・ 本理事会と大会委員の連携及び役割分担を進め、大会開催者の負担を減らし今後の安定的な大会開催を目指す。

大会組織委員会

委員	氏名(所属)
大会長	小寺義男(北里大学)
副大会長	紀藤圭治(明治大学)
副大会長	松本雅記(新潟大学)
実行委員(庶務)	木下英司(広島文教大学)
実行委員(庶務)	足達俊吾(産業技術総合研究所)
実行委員(庶務)	川島 祐介(かずさDNA研究所)
実行委員(会計)(主)	荒川憲昭(国立医薬品食品衛生研究所)
実行委員(会計)	杉山直幸(京都大学)
実行委員(要旨集編集)(主)	武森信曉(愛媛大学)
実行委員(要旨集編集)	増田 豪(熊本大学)
実行委員(要旨集編集)	若林真樹(国立循環器病研究センター)
実行委員(企業)(主)	曾川一幸(麻布大学)
実行委員(企業)	榊原陽一(宮崎大学)
実行委員(企業)	足立淳(医薬基盤・健康・栄養研究所)
実行委員(企業、北里庶務)	松本俊英(北里大学)
実行委員(総合)	肥後大輔(サーモフィッシャーサイエンティフィック)
実行委員(会場、北里庶務)	松井 崇(北里大学)
実行委員(会場、北里庶務)	長塩 亮(北里大学)
プログラム委員(委員長)	石濱 泰(京都大学)
プログラム委員	荒木令江(熊本大学)
プログラム委員	岩崎未央(京都大学)
プログラム委員	河野 信(富山国際大学)
プログラム委員	紀藤圭治(明治大学)
プログラム委員	木村弥生(横浜市立大学)
プログラム委員	小寺義男(北里大学)
プログラム委員	田中恒平(田辺三菱製薬株式会社)
プログラム委員	松本 雅記(新潟大学)

- 1 日目の午後から基調講演及び教育講演を行う。その後、jPOST、JPDM の活動紹介、翌日からのシンポジウム紹介する動画も放映、JPrOS の歴史の説明も行う予定、できれば 1 日目 A 会場は無料で誰でも参加でき、JPROS を紹介する場にしたい。また、closed でのキャリア支援の企画を行いたい(プログラム委員の皆様と相談)。
- セッションは 10, ポスターは 4 分割で行いたい(コロナ対策)。
- 企業協賛として、現状 広告、展示、セミナー合わせて 9 社に協賛していただいている。
- 宿泊については町田あたりが良いのではないだろうか、できれば町田からの直通バスを出したいが、検討中。
- 小迫先生が日本蛋白質化学会との合同セッションを検討(JPrOS 側での発表者 3 名を考えている、構造に近い方々の自薦、他薦まち)(6/7~9 のタンパク質化学会での合同セッションを行う、こちらは講演者確定済み)

質問

オンラインになった場合の協賛企業への返金はないのか？

> 返金無しで考えている。展示の場合も、オンラインでの紹介に変更させていただく形での維持を考えている。

5. HUPO, AOHUPO 活動報告(小寺、荒木、岩崎、石濱)

(1) HUPO 関連(小寺、荒木、岩崎)(資料 3-1)

- HUPO2021 はオンライン開催であった(11/15~11/19)。
- 47 カ国からの 1334 人が参加、参加者、協賛ともに当初の予定を大幅に超える盛況、中国の方が最大の参加者であった。
- ECR(Early career researcher) になられた岩崎さんが、HUPO でのキャリア支援のメンタリングセッションを担当され、盛況であった。
- プログラムは見にくかったが、会場移動などはアバターなどを利用した UI が動いており、ゲーム感覚で良かった。
- 来年 2022 12/4~8 カンクン(メキシコ)で開催予定、2023 はインドからの変更でプサン(韓国)になりそう？ 2024 年はベルリン(ドイツ)

(2) AOHUPO 関連(石濱)

2023 AOHUPO シンガポールで 5 月ごろを予定

(HUPO がプサンで行う場合は、アジアで重なってしまう？)

2021 AOHUPO on-line educational course(3 月、マカオ)

2022 AOHUPO on-line educational course(3 月、マレーシア)

- 日本は HUPO のメンバー数としては 4 位なのに、存在感は薄く、改善が必要。
- EuPA(ヨーロッパ)が HUPO と連携している、AOHUPO も同様に連携が必要。石濱先生の

AOHUPO 理事の任期が 2022 年末まで、後任の AOHUPO 理事日本代表の方には HUPO と連携し引っ張れる方になっていただきたい。

(3) その他

6. JPrOS イニシアチブ(奥田、石濱)

(1) Journal of Proteome Data and Methods (JPDM)

jPOST 登録データについての論文化の流れを確立したいので、ぜひ投稿を！

(2) Japan Proteome Standard Repository/Database (jPOST)

JST-NBDC 予算が 2023.3 まで、引き続き、JST の予算申請を行う予定

jPOST に登録されている実験条件が正しいかどうかの検証を行う必要があり、学生のバイト募集中

(3) その他

PXC(データサイエンスの試みが進んでいるが、日本は参加していない)

HUPO, AOHUPO での日本のプレゼンスを上げるために、若手の方に積極的に組織委員へ参加していただく仕組みを作りたい。

7. 学会誌発刊(大槻、奥田)

(1) Proteome Letters

2021 年度の第 2 巻が発行された。2022 年度は第 1 巻を 6~7 月に発行予定。学会賞取得者は執筆をしてほしい。

(2) JPDM

2021 年度は2つの論文が出た。積極的な投稿を期待。これまで、論文の校正を自前で行なっていたが、予算を用い業者への依頼することにした。過去の論文についても業者による校正を行う予定。jPOST からのデータの抽出については相談を受ける。

8. 日本学術会議協力学術研究団体への登録(紀藤)

(1) 2021 年 6 月 24 日付で日本学術会議協力学術研究団体に指定された(第 381 号学会通信で配信。それにともない、学会事務局を新潟から神奈川に 2021 年 7 月 27 日付で変更した。

9. 日本プロテオーム学会賞等(木下)

(1) 2022 年度の予定

2月の中頃に推薦者が募られ、3 月に委員会が構成される予定。学会通信等で周知予定。

10. KHUPO との交換講演(小寺、近藤)

(1) 2022 年について

足立淳先生が講演予定

(2) 2010 年~2021 年

2010 年 KHUPO 山本 格、木下英司

2010 年 JHUPO Ho Jeong Kwon (KHUPO 会長)
2011 年 KHUPO 平野 久
2011 年 JHUPO Je Kyung Seong (Seoul National Univ), Kang-Sik Park (Kung Hee Univ)
2012 年 KHUPO 山田 哲司
2012 年 JHUPO Kwang Pyo Kim (Konkuk University)
2013 年 KHUPO 朝長 毅
2013 年 JHUPO KHUPO7 名の HUPPO2013 によるサポートで対応
2014 年 KHUPO 近藤 格 (KHUPO 側からの推薦)
2014 年 JHUPO Byoung Chul Park (Korea Res. Inst. of Biosci. & Biotechnol.)
2015 年 KHUPO 荒木令江
2015 年 JHUPO Bonghee Lee (Gachon University)
2016 年 KHUPO 小松節子, 野呂 絵里花
2016 年 JHUPO Kwang Pyo Kim
2017 年 KHUPO 服部成介, 野村文夫
2017 年 JHUPO Cheolju Lee
2018 年 KHUPO 石濱泰
2018 年 JHUPO Jo-Yoel Cho
2019 年 KHUPO 大槻純男、太田信哉
2019 年 JHUPO Jinhwan Eugene Lee
2020 年 KHUPO 奥田修二郎、紀藤圭治、松本雅記 (中止)
2020 年 JHUPO 中止
2021 年 KHUPO 奥田修二郎、紀藤圭治、松本雅記
2021 年 JHUPO Kim Youngsoo

11. 各担当理事からの報告

(1) 学会誌編集活動 (大槻、奥田)

- ・ 上記の通り

(2) 学術企画活動 (荒木、岩崎)

- ・ 他学会との連携

分子生物学会 (2021/12/1~12/3 パシフィコ横浜) でのセッションの開催 (岩崎、荒木がオーガナイズ) オンラインも合わせて 220 名程度が参加。今年も分子生物学会でのセッション開催の予定 (トランスオミクスに関する内容を予定)

(3) 教育活動 (堂前)

- ・ 解析について動画の配信を予定していたが、コロナ禍の中配信に至らず。
今年は、配信に加え、現地開催 (理研) を予定。

(4) 国際活動 (近藤) (資料2)

- ・ 今年より HUPO 理事選挙で当選(2年間任期)
- ・ Presentation Award 今後も AOHUPO, HUPO での Presentation Award があるので、皆様ぜひ準備を(競争があることが好ましい)。
- ・ HUPO 会議(各地域の代表者会議)に近藤先生を含め日本から3名参加
概要、大会の説明があり、将来の方向性を検討中、病気とミッシングリンクを探すことを中心に進める。ヨーロッパ全体での情報共有の仕組みができている。若手に対するエンカレッジとしてトラベルアワードの推進する、などの話があった。AOHUP と HUPO の連携を進める必要がある。

(5) 広報活動(河野)

- ・ 今後、トレーニングコースなど開催されれば広報に努める。

論文キュレーションの人材募集中 <https://forms.gle/JGZLvWFTeAg3CuDE8>

12. 2019-2020 年度主催・後援・協賛実績(小寺)

- ・ 北里疾患プロテオーム研究会(2021年3月19日、オンライン開催)

13. その他

- (1) 名誉会員について(紀藤):引き続き議論を続けたい。(現状名誉会員は0名)
名誉会員規定の確認を行う。

【審議事項】

1. JPrOS2023 年大会(大会長:新潟大学 松本雅記)(資料5)

(1)開催会場:朱鷺メッセ(新潟)2023 年 7/25~7/26 で開催すること、会場費の頭金を学会より支払うことについて、学会で承認された。

2. JPrOS2024 年大会(小寺)

(1)大会長、開催場所

夏までには決定する必要がある。執行部で候補の方を検討予定。

3. 理事任期について(小寺)

(1)任期の短期化について、メールベースで相談させていただきたい。

「参考資料」 年大会開催地／大会長

年	開催地／大会長
2003	第1回 つくば／中西洋志
2004	第2回 東京／戸田年総
2005	第3回 横浜／平野 久
2006	第4回 東京／西村俊秀
2007	第5回 東京／磯邊俊明
2008	第6回 大阪／高尾敏文
2009	第7回 東京／前田忠計
2010	第8回 千葉／山田哲司
2011	第9回 新潟／山本 格
2012	第10回 東京／高橋信弘
2013	第11回(HUPOと合同) 横浜／平野 久
2014	第12回 つくば／成松 久
2015	第13回 熊本／荒木令江
2016	第14回 東京／服部成介
2017	第15回 大阪／朝長 毅 7/26-28, ホテル阪急エキスポパーク
2018	第16回 大阪／石濱 泰 (第66回質量分析総合討論会(日本質量分析学会の年次大会)と第9回AOHUPOとの合同大会) 2018.5.15-18, ホテル阪急エキスポパーク
2019	第17回 宮崎／榊原陽一、松本雅記、大槻純男 2019.7.24-27
2020	第18回 東京／紀藤圭治、堂前直、川村猛 (中止)
2021	第19回 徳島／小迫英尊
2022	第20回 神奈川／小寺義男
2023	第21回 新潟／松本雅記
2024	第22回 未定